

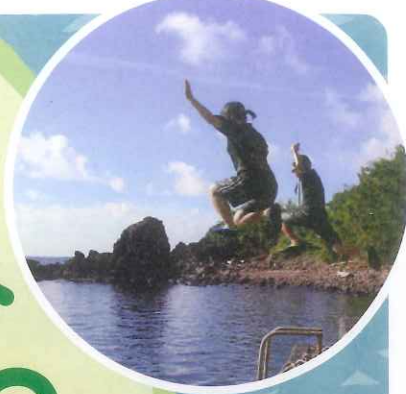
全国の小・中学生の皆さんと
お父さんお母さんへ

都会にない
ものがある島

口永良部島へ 留学に来ませんか？

はじめまして、鹿児島県の離島・口永良部島(くちのえらぶじま)です。
口永良部島では小学1年生から中学3年生を対象にした、山海留学の
参加者を募集しています。屋久島から船で渡る口永良部島は、
まさに離島のなかの離島。ワイルドな自然があり、約110人の
島民が家族のように暮らす島で過ごす1年間には、
都会では体験できない学びがいっぱい。

あなたも人生の宝物を見つけに
口永良部島に来ませんか？



鳥の子どもたちや
卒業生からメッセージも
もらいました

「一緒につりをしよう
(小学生・島歴1年)」



「みどりがたくさんだから
ひみつきちとかがいっしょに
つくろう。海がキレイで
お魚も多いよ」
(小学生・島歴10年)」

「いろんな挑戦が出来るし、
いろんなことに挑戦しやすい所です」
(中学生・島歴15年)」



「早く一緒に遊ぼうよ。
すごく楽しいよ」
(中学生・島歴15年)」

「たくさん話をしましょう」
(中学生・島歴1年)」



「海と一緒に泳ごうよ」
(中学生・島歴7年)」



「小さい島なのに世界が見える。
みんながやさしく遊びは無限」
(小学生・島歴12年)」



「楽しい学校生活です。
みんなで一緒に遊ぼう」
(小学生・島歴1年)」

「人間関係がいいです。
みんなで遊ぼう」
(小学生・島歴2年)」



ゲームセンターもテレビもないけれど、
島の中には竹や浜の漂流物など
不思議で面白いものが溢れています！
自分の想像力次第でなんでもできる！
そんな、全力の遊びが最高に楽しい！
(卒業生・島歴15年)」

「人とのつながりを
強く感じられます」
(中学生・島歴1年)」

「町の人とのきりが
とっても近いからとっても
楽しい話がいっぱいできます」
(中学生・島歴9年)」

「口永良部島は自然豊かで、
人も温かいところです。ほかの
場所ではできない体験をして、
思い出をつくってください！」
(卒業生・島歴15年)」



口永良部島・金岳(かながだけ)小中学校への留学を「南海ひょうたん島留学」と呼んでいます。
詳細は屋久島町ホームページより「南海ひょうたん島留学」で検索してください。



島で子どもを育てる お母さんたちの体験談



「行ってみたい」という子どもの気持ちを尊重しました。

増みどりさん（3人兄弟の長女、長男が離島留学経験。末っ子も留学を希望中）

長女が小学6年生の頃に1年留学し、現在は弟が留学中です。きっかけは新聞の募集広告を見つけた娘が「行ってみたい」と言い出したことでした。留学に行かせることを周囲に伝え、反対する声もありました。私自身にも不安はありましたが、「大好きな自然の中で生活してみたい」という子どもの意思を大事にしたいと思いました。

留学生活はすごく心地よかったようで、島の人は家族同然で声をかけてくれ、お友達とも密なお付き合いができたようです。2015年の噴火では一度自宅に戻しましたが、本人は「帰りたい」といってすぐに島へ戻り、島の皆さんと一緒に屋久島で半年間ほどの避難生活をしていました。避難生活中は里親さんにも迷惑がかかると思ったのですが、里親さんも

本人の気持ちを大事にしてくれたため、お世話になることができました。血はつながっていないけど、しっかりとした信頼関係があり、噴火が起きたことで余計にそれが見出されたのかもしれませんが。

留学生活では時々友達と喧嘩をするなど嫌なこともあったようですが、それも含めて島のことは好きなようです。大人になる過程でも、嫌なことがあったり、合わない人がいるかもしれませんが、そんな時に「本当に自分はどうしたいのか」という問いかけを自分自身にできる子になってもらいたい。そういった意味でも留学は大事な経験になったと感じています。



「やり残したことがあるから」と次男は自ら留学をリピート。

山田由紀子さん（長男、次男、長女が山海留学を体験）

4人の子どものうち3人が口永良部島の山海留学へ行きました。新聞の募集広告に載っていた山海留学という言葉にわくわくして、150人(当時)が暮らしている口永良部島の生活ってどういうものだろうと興味を持ち、当時小学2年生だった次男と夫が島を見に行くことにしました。

宿泊した民宿が、実際に留学でお世話になる里親さんの実家で、おじいちゃんおばあちゃんがいて、子どもたちも集まってきて、みんなでわいわい夕食をいただきました。「こういうのもいいかな」と思って帰ると、息子も「俺、あそこに行くわ」というので、長男も誘って兄弟2人を留学に出しました。留学は1年のはずでしたが、次男は「やり残したことがあ

るから」と1年延長。さらに中学2年の夏休みに兄と久しぶりに島を訪ねた彼は、親友のお母さんに「またこっちへ来ない？」と声をかけていただき、再び留学して中学卒業までお世話になりました。噴火した後に次男を留学に出すときは多少心配をしましたが、島のみなさんに習っていれば大丈夫だと思いました。

今年の春、留学を終えた次男を迎えに行くため、最後だからと家族全員で島に行くと、今度は中学2年になる長女も「私も行きたい」と言いはじめたので、長女も留学。子どもたちがお世話になったご家庭にはとても良くしてくださり、島の人も温かく迎えてくださいました。



都会では体験できない大事な時間を親子で共有できます。

貴船恭子さん（口永良部島在住、島のお母さん）

人口約110人という小さな島の生活を想像出来ますか？島の人は皆が知り合いだから、子どもたちはすれちがう人や車に必ず挨拶するのが当たり前。挨拶の出来ない子は島の人にしかられるぐらいです。

一日一便の船が唯一の交通手段という不便もあり、島の人は普段から互いに助け合って暮らしています。島の方から野菜や魚を分けていただいたことも多いので、食卓を囲む時には「これは〇〇さんからいただいたお野菜だよ」という話もします。これはとても大切なことで、ただ漠然と「食べ物に感謝しなさい」と教えるのではなく、具体的に「〇〇さんが大

切に育てたお野菜」だからと思い浮かべながら「ありがとう」の気持ちを持ち、「いただきます」の意味をきちんと理解することができるのです。良いところを挙げるときりはありませんが、この島の生活では、人間として生きていくうえで大切なことに気づけることではないかと思います。

島の学校は少人数のため、一人一人にあった丁寧な指導をさせていただきます。留学期間は1年で延長も可能ですが、できれば親子で留学に来ていただき、親御さんにも島生活を堪能していただきたいと思います。きっと都会暮らしでは持ちづらい大切な時間を親子で共有できると思います。

口永良部島の山海留学制度（南海ひょうたん島留学）のお問い合わせ先

●屋久島町役場 口永良部島出張所 TEL 0997-49-2100

●屋久島町立金岳小・中学校 TEL 0997-49-2141